

まだ遅くない

葉月 一郎

え・小西保文(題字も)



疑惑

病院の廊下には、そのおいは深く沈んでいた。

いらだちを誘う消毒液のにおい、どこか重苦しい血のにおい……。

それを肩でかきわけるようにして、戸波は病室へ足を運ぶ。

(一家心中せえ、とでもいうのか)

あの判決記事のつた日、支局の一角で眼を血走らせながら叫んだ堂本俊夫の音が、鼓膜によみがえる。

その堂本が死んだ。失業ならまだしも、いのちを失ってしまったのである。あとに残った家族たちは、どうし

〈あらすじ〉神戸に君臨する大企業、兵庫製鉄(兵鉄)の公害をなくするため毎朝新聞神戸支局がキャンペーンを企画、取材をすすめていた。昭和四十五年秋のことだ。
意気な日常生活の中で仕事への情熱を失っていた戸波峻記者も石津支局長に誘われて参加する。たまたま静客にからまれているところを助けてやった兵鉄秘書課の編川亜紀子と親しくなり、亜紀子は会社首脳の新開対策などを戸波に知らせて協力する。
兵鉄の和久井社長らの会見も実現するが、社長らは高容勢の答弁を繰り返す。花房総務部長を中心に新聞社工作をすすめる、広告の掲載もとりにやめる。また亜紀子を工場勤務に配置換えする。
かつて戸波の書いた記事のために職場を追われた堂本俊夫という男が交通事故に遭う。病室にかけつけた戸波を娘のしのぶは「あなたのせいだ」と激しく責める。その夜、支局長は本社から呼び出しを受けた。戸波や八木沢記者の予想通り、それはキャンペーン記事の掲載中止命令だった。翌日の緊急部会で、支局長は泉田次長とともに「了解してくれ」と全員を説得する。その席へ、堂本の死が知らされた。

て生きる道を選ぶのだろうか。

病室は三階だと聞いた。

その階段を急ぎ足で登りながら戸波はふとわれに還る。

(おれは、一体、なにをしに來たのか)

詫びるため、とはいえない。

それでは、哀悼の意を表するためにか。

いや、そんな、通りいっぺんの見舞客で許されるとは思っていない。

さりとて、新聞記者の職業意識とは、全く無縁の行為

である。

病室のドアがみえた。

近寄る。半開きのドアから中の衝立ごしに、ベッドが視線に飛びこむ。

あと片付けをしているらしい看護婦の背後に、堂本の妻がみえた。遺体にすがりついたままの気弱な姿勢が、むき出しになっている。

一瞬、ためらいが心に走った。

どんなおくやみのことばを述べたらいいのか。

「どうも」と頭を下げるだけの、なんともしまらない自分自身が脳裏に浮かぶ。

ぐらつき、ためらっているところへ、ひときわ甲高い泣き声が突き刺さった。おそらく堂本の妻のものだろう。(とにかく、ひと通りのおくやみを伝えなくては……)意を決した。

病室へ一步、はいるとする。そのドアが中から開かれた。

「あっ」

声にならぬ叫びが、洩れた。堂本の娘しのぶの、真赤に泣きはらした瞳が、すく鼻先に大写しになっている。

しのぶの方も、不意を衝かれたらしい。

一秒の何分の一か、相手を見さだめる時間があつて、あらためて眼に光がともった。

(なにしに來たのよ)

視線に、戸波をなじるいろがまじった。ふとい眉が、意志を持って動いた。

「このたびは、どうも。なんと申し上げたらいいのか、まことに……」

われながら歯切れ悪く、もごもごとつぶやく。目を伏せ、頭を垂れる。

おのれの屈折した気持を、どう表現したらいいのか。ことばとは、こんなにも、表現力のないものなのか。

判決を待つ被告のような心境で、うつむいた姿勢をつづける。その頬に、突然、激しい平手打ちが飛んだ。

しのぶだった。

唇をかみしめ、力いっぱい平手打ちである。

頬に、カッと血がのぼった。だが、不思議に、怒りはわいてこない。むしろ、奇妙な快感がそこにあった。なんととはなく、次の判決を待つ姿勢になった。

しかし、それが最初で、最後だった。

しのぶは、自分自身の体を、まるで使い捨ての雑布のように床に投げ捨てたのだ。

間を置かずウオーとでもいうような泣き声が、はじけ出た。動物的な、幼児に似た号泣だった。イヤイヤをするように、しのぶは全身をよじった。

病室内の看護婦が、聞きとがめて出てくる。廊下を通る入院患者たちも足をとめる。好奇の眼差が、二人に集まってきた。

(なんとということだ)

逃げ場はない。いや、逃げる意志もなかった。身をさらすことが、一つの服役でもあった。

前夜、三宮の鍋もの屋で、支局長のつぶやいたことばがよみがえってきた。

(新聞のために殺されたり、傷つけられた人も多い。新聞が、むしろ善意でやった記事のおかげで、な)

それを帳消しにするために、キャンペーンをやるのだ、と支局長はいった。戸波の帳消し行為は、ここに立ちつくして、しのぶの号泣を耳にしつづけ、人々の好奇心の餌になることではないのか。

矢つぎ早やに、非難のことばを浴びせられる方が、ずっと気が楽かもしれぬ。

だが、戸波は耐えた。

この一家の、針のような非難をうけとめ、のみ干してしまふことが、いま自分に与えられた義務なのだ、と自らにいい聞かせていた。

なぜ、自分はここにいるのだろうか。

その「細川」という表札をさがし当てたとき、戸波は急におのれに問いかけた。

堂本の遺体が眠っている病院を飛び出した戸波の脳裏を、最初にかすめたのは細川亜紀子の面影だった。

住まいは西宮市の、堤町とだけしか聞いていなかった。電話番号は知っていたが、電話をかけるだけでは物足りぬ。なんとしても、会いたい。会って、話したい……。

(すべて終わった)

そう、兵庫製鉄への公害キャンペーンの、あつけない幕切れ。そして亜紀子との愛のかけひき。堂本の死――。

なにもかもが、限界いっぱいには伸ばしたゴム紐の切れるように、一つずつちぎれてゆく。

宵闇が一段と濃さを増してゆく中で、戸波はひどく孤独であった。

タイムトンネルで、急に一カ月前へ引きもどされたような錯覚が、毛穴からしみこんでくる。張りつめた糸が、つぎつぎと切れたあとに残っているのは、あのころの意

情なころだけではないのか。

そんな想いに襲われるなかで、亜紀子の白い頬は、まるで溺れるものがつかんだワラともいえた。

(そうだ。彼女とのことは、まだ終っていない)

(会いたい。何でもいい、思い切りぶっつけあおう)

タクシーを拾う。

西宮の行先を告げる。

阪神国道を飛ばしながら、戸波は道に迷った少年のころを思い出していた。

(家がみつかったら、母親の胸にとびこんで、思いきり泣いてやるんだ)

そう心に誓いながら道を捜した思い出。その母の胸に、亜紀子の白い肌が重なる。重なっては甘酸っぱく揺れる……。

家をつつけ出すのに、たっぷり三十分はかかった。武庫川の堤防に近いその住宅地は、意外に近所づきあいも少なく、家探しに慣れた新聞記者の戸波も、手こずらされたのである。



呼鈴を押す。

間をおいて、返事の気配があった。やがて、玄関に現れたのは、母親らしい中年の婦人だった。

戸波は、名刺を出し、亜紀子の帰宅を確かめた。

「さあ、きょうは多分、こちらへは帰らないと思います
が……」

名刺と戸波とを半分ずつ見比べながら、母親は言葉をにがした。

「こちらへは、といいますと、あのう、今夜は、どこへ……」

「御影の、アパートでしょうね」

「アパート、その、アパートというのは……」

「ええ、いつもは、そちらで……。ここへ帰って参りますのは、土曜か、日曜の昼くらいですけどねえ」

ということなのだ。

アパート住まいとは、聞いたこともない。

玄関の灯を背にしているので、母親の表情は暗くて読みとれぬ。が、嘘をついているような口調ではない……。

「アパートっていうのは、一人ずまいで……」

「え？」

随分、ヘンなことを質問するんですね、というような、とがった声になった。

「あのウ、あなたは亜紀子とはどういうご関係でしょうか」

「あ、いや、どうも、失礼しました」

取材を通じて知りあったこと、その後も何かと世話になってること……。かんとんに説明してから、戸波はそのアパートの場所や電話を教えてほしいと頼んだ。

「お断わりします」

ピシヤリと、叩きつけるような声が返ってきた。

「この夏にも、うっかり教えたばかりに、あの娘が大変迷惑したそうで……。もう、どなたにも、しゃべらない
つてことに決めております」

「しかし、あのう、私は……」

「特別な関係」にあるといたい。が、考えてみれば、二人の関係は一体、どう表現すればいいのか。

将来を約束しているわけではない。身体で結ばれた、なまなましい関係ともいえぬ。

「とにかく、娘は、こちらにはおりません。どうか、お引取りください」

ことばつきは丁重だが、玄関を早く閉めてしまいたいというポーズである。

戸波は、あきらめた。

ひどくむなしい、ひからびた胸のなかを持てあましながら、武庫川の堤防へ出た。

肩すかし、と思うのは勝手すぎるかもしれない。裏切りといってしまうのも早計に過ぎよう。

だけど、このままでは亜紀子さえも信じられないということではないのか。

（住所を教えたために迷惑した）と母親はいった。迷惑とは、どういうことなのだろう。亜紀子の身辺に暗い影のあることを、それは意味しているのではあるまいか。

戸波の記憶は、はじめて亜紀子と出会った夜にさかのぼっていた。

あれは、たしか午前二時ごろだったのではないか。布引のサパークラブで、男たちに囲まれて亜紀子は酒を飲んでいた。

「下請けの人達なんです」と、あとで彼女はいった。しかし、身内であろうと誰であろうと、大会社の秘書嬢が深夜に酒を飲んでたことに対して、かすかに興味を覚えた記憶がある。

あのあと、一見つつしみ深いポーズの裏側で時折、思わぬ軽さをのぞかせたのも事実である。

それに、アパート住まいのことを、戸波にまで隠し通そうとしたのは、どう解釈してもフェアではないような気がする。

もどかしさが襲った。

なぜか、自分がはじめに思えてならない。

ようやく拾ったタクシーの中で夜気を払い落とすと、戸波の心は酒場へと走っていた。

ユカのつとめているバーは、東門筋を二筋東へ入ったところにある。

が、ユカはいなかった。

二日前から休んでいる、と同僚のホステスがいった。

「ハゲかヒゲと有馬温泉にでも行ってるんやろ」と、けたたましく笑った。

ユカのあの暖かい笑顔を、今夜こそ欲しいと思う。

しかし、ユカのアパートまでは行く気が起こらなかった。行ってみて、いなかったときのむなしさが戸波にブレーキをかけたともいえる……。

結局、酒に溺れた。ひと月前の、あのザラザラした気持が、満ち潮のように押し寄せてくるのを確かめながら、グラスを重ねた。

それこそ「生まれ変わった」ような一カ月だった。そのなかで、戸波は汗まみれになりながらいくつものものを得た。

が、得ることの苦しさに比べて、失うことの何という早さ、あつけなさ。

突然、身ぐるみはがれて、寒夜の路上に放り出されたような虚脱感が、戸波を包んでいた。

「おい、浮気するか」

手当り次第に、ホステスに声をかけた。

「バカにしないでよ」

手ひどい拒絶しか返ってこなかった。実際、どんなに飢えた女でも、今夜の戸波にすり寄ってはこないだろう。それほど彼は荒れていたのだから。

気がついたとき、自宅に近い路上にいた。その五毛天神に近い安アパートは、登り坂の細いみちを五十メートルほど上がったところにある。

ふらつく足をふみしめて、一歩ずつゆつくりと歩く。

ほの暗い街灯を受けて、長い影が揺れた。

(ああ、これが、おれのぶざまな姿だ)

怒涛のような自嘲が、足許に押し寄せる。おれの帰りを待っているのは、古新聞の谷間の、ほこりっぽい畳だけなんだ――。

ヘドを吐きたくなるような自己嫌悪に溺れながら、アパートにたどりつく。

二階へ上がる。

廊下を揺れながら歩く。

ふと、その鼻先に人影が立ちはだかった。

右へ寄ると、その影も右へ寄る。左へ戻りかけると、左へ――。

「戸波さん」

影が低く叫んだ。

懸命に焦点をしぼって、その影をみつめる。

細川亜紀子だった。

長い時間をかけて待っていたのだろうか、寒さのために血の気がうせて、いつそう頬が青白くみえた。

「戸波さん」

両手で、戸波の両腕をつかんだ。そのまま全身を揺さぶるようにして身もだえだ。

なんということだ。

酔いが、音をたてて消えてゆく。

いや、二階の欄も、街灯も、アパート自体まで崩れ落ちて、荒野の中に二人きり……。

それなのに言葉が出ない。

いうことは、訴えたいことは、いっぱいある。なのに、声にならない。

先に、亜紀子の唇が動いた。

「駄目じゃないの、公害キャンペーン、やめたりして。どうして、中止したの。なぜ、やろうとしないの」

(つづく)

★「神戸っ子」いつも楽しく拝見

(東京 石橋 幸子)

★時々訪れる神戸の書店で目にしては是非毎月目をとおしたくなりまして。現在の神戸を三週間住んでいたらと比べると随分変りました。でも市草山に神戸市草が灯る夜景は素晴らしいものです。神戸は私の第二の故郷です。将来又必ず神戸市民権をとるつもりです。(大阪市淀口洗)

小小小楠貝鴨柏嘉嘉金小小岡牛梗石石乾砂青朝安
 泉林磯本原居井納納井野根崎尾並野野野木奈部
 德芳良憲六健毅正元一真吉正成信豐重正
 一夫平吉一玲一六治彦夫造忠朗一明一彦仁雄隆夫
 津高陳田玉田田滝滝竹角砂塩新白佐雀坂古後上小
 高橋辺井中宮川川中南田路谷川藤部井林藤林林
 和舜聖健虎勝清猛重義秀昌時喜末英秀
 一孟臣子操郎彦二一郁夫民孝雄渥廉之介忠樂二一雄

神行元百村尤宮宮松福深畑野南難中中西直外竹
戸吉永崎上田地崎井富水 澤部波西卷脇村木島馬
青年
会哉定辰正顕襄辰高芳惣専幸圭 太健準
議女正雄司二雄男美吉郎三還勝弘親功吉之助

（小泉 康夫）

（小泉 美喜子）

分 1300元

王さんへどうぞ。

甲南堂	小原光文堂	北村書店	南天莊書堂	文洋書房	ラッシュ書房	神戸図書
国鉄本山駅北口	国鉄住吉駅北口	東灘区本山	東灘区御影中町	阪急六甲駅2階	新聞会館1階	荻合区布引町4
						生田区古湊通1

★新刊が目についた。昨日、病葉にき
ようならをしたのに、今日、また、

★「ふーん、かたい」といふことが
なので……。

〔井上 久代〕

まつ？　ありがとう。〈かはさき〉

いただきました。

〔藤村 志保〕



コーベツクス
さんちかタウン

神戶書林	秋田百文館	漢口堂書店	隆司書房	寶文館	海文堂	漢口堂三宮店	日東館
板宿バス停前	長田区院塚町	湊川商店街	新開地本通	元町通5丁目	元町通3丁目	京町	大丸前

★月刊神戸っ子に広告を掲載ご希望の方は編集室へお申し込み下さい。
★神戸百店会の事務局は月刊神戸っ子編集室内にあります。

神戸っ子NO・169

★発行／50年5月1日

★編集・発行／小泉 康夫
★発行所・神戸つ子編集室

神戸市生田区東町113の1

大神ビル7階

辰香口壺	(33)	2	2	4	6	(代)
曲						
古						
四						
五						
一						
九						
六						

額価200円

神戸のうまいもん&ドリンキング

★日本料理

讃岐名代うどん **あこや亭**
神戸市東灘区旗塚通7-5 TEL 231-6300
トアロード店 TEL 391-2538
兵庫駅前店 TEL 575-5306

和食 **くれない**
三宮生田新道浜側中央
KCBビル2F TEL 331-0494

かつばう **花くま**
神戸市生田区花岡町45
TEL 341-0240

鍋もの・おむすび **悟味西**
お茶漬・かばた
神戸市生田区北長狭通1の20 TEL 331-3848
三宮さんちかタウン TEL 391-5319

お茶漬・おむすび **ふる里**
鍋もの
神戸市生田区北長狭通2の1
TEL 331-5535

たこ焼 **たちばな**
三宮センター街(旧柳筋) TEL 331-0572

北海道郷土料理 **蝦夷**
神戸市生田区中山手通1丁目115
生田区東門筋東門会館ビル1階
TEL 331-7770

カニ料理 **婆娑羅(ばさら)**
神戸市生田区北長狭通1丁目118
三宮阪急西口北側レインボーアサザ1・2F
TEL 321-6363

★西洋料理

レストラン **アポロン**
ティー・バーラー
神戸市東灘区八幡通5丁目6
TEL 251-3231

レストラン **鹿皮<あらかわ>**
神戸市生田区中山手2-9
TEL 221-8547・231-3315

GALLERY & STEAK HOUSE **SAN-MON 三門**
神戸市生田区中山手通2丁目98ノ99
TEL 331-5817

ステーキハウス **れんが亭**
神戸市生田区下山手通2丁目34
TEL 331-7168

レストラン **セントジョージ**
神戸市生田区北野町1丁目130
TEL 242-1234

レストラン **男爵**
神戸市生田区中山手1-18
山手第一ビル1F TEL 241-0778

maison de la mode

花屋敷
三宮フラワーロード市役所前
TEL 251-2109

鉄板グリル **きやんどの**
神戸市生田区北長狭通2-22
TEL 331-1183

レストラン **キングスアームス**
神戸市東灘区磯辺通4-61
TEL 221-3774

居酒屋風 **井戸のある家**
れすとらん
生田新道新世紀南
TEL 331-5664

レストラン **ムーンライト**
三宮・生田新道
TEL 331-9554

串かつ店 **和蘭陀屋**
三宮相互タクシー北入
TEL 321-0230

クリル・鉄板焼 **月段**
神戸市生田区北長狭通1-24
生田神社前 TEL 331-2509

BARBECUE & STEAK **六**
生田区元町通3丁目
TEL 331-2108

レストラン **スイスシャレー**
神戸市生田区北野町3丁目48アニルドマンション1F
TEL 221-4343

レストラン **ハイウェイ**
神戸市生田区下山手2-20
TEL 331-7622

ピッツアハウス **ピノッキオ**
神戸市生田区中山手2-101
TEL 331-3545

レストラン **フック東店**
神戸市生田区栄町1-5-3
TEL 321-3207

ピザ&スナック **ガルの店**
三宮合琴緒町5丁目1-7
西山ビル1F TEL 241-9025

ステーキハウス **グレル青山**
神戸市生田区中山手通2丁目112-2
(トアロード) TEL 391-4858

ピザ・パブ **ピザ・パテオ**
神戸市生田区元町通1丁目49(元町1番街)
TEL 331-9378

フォーエス

ローストシティ
神戸市生田区三宮町3丁目22
TEL 331-3770

RESTAURANT & BAR **ゴックスタッド**
生田区山本通3丁目18 回教寺院前
TEL 242-0131

メキシコ小料理亭 **ティファナ**
神戸市生田区中山手通1丁目4ノ12 パールコーポラスビル1F
TEL 242-0043

ドイツ風 **コーベ・ローレライ**
音楽レストラン
生田区北長狭通6丁目39
TEL 371-0086

★喫茶

宮・水の **にしむら珈琲店**
コーヒ
中山手店・神戸市生田区中山手通1丁目70
TEL 221-1872・231-9524

センター街店・ **神戸市生田区三宮町2丁目35**
TEL 391-0669
北野店・山本通2丁目9 TEL 242-2467
(会員制) 3F事務所 TEL 242-1880

喫茶・レストラン **バロン**
神戸三宮サンプラザ地下
トアロード店 TEL 391-1758
TEL 391-1210

喫茶 **ガーディニア**
神戸市生田区東町113-1 大神ビル1F
TEL 321-5114

珈琲 **モーツアルト**
神戸市生田区山本通2丁目98グランドマンション1F
TEL 241-3961

ティー&スナック **サボテン**
神戸市生田区中山手通2丁目
(神戸女子短大前) TEL 241-7060

★club

クラブ **千**
神戸市生田区下山手通り2丁目21
TEL 391-1077

c l u b **飛鳥**
神戸市生田区中山手1丁目117
TEL 331-7627

c l u b **小万**
神戸市生田区東門筋中島ビル3F
TEL 391-0638・4386

c l u b **さち**
神戸市生田区中山手通2丁目75
TEL 331-7120

c l u b **なぎさ**
神戸市生田区北長狭通2の1 TEL 331-8626

c l u b **落<ふき>**
神戸市生田区下山手通2丁目 TEL 391-1515

くらぶ **ぶーげん**
三宮生田新道浜側中央KCBビル5F
TEL 331-8593

c l u b **Moon Light**
BAR TEL 331-0886・391-2696
Club TEL 331-0157

クラブ **るふらん**
神戸市生田区北長狭通1丁目53 TEL 331-2854

★STAND & SNACK **ベルビュ・ドール**
ドリンク & レストラン
神戸市生田区中山手通2丁目101 大洋ビル2F
TEL 321 5677

スタンド **英国屋**
生田区下山手通2-6 相模タクシー横
TEL 331-1100・331-6600

洋酒ハウス **雑貨屋**
生田区下山手通2丁目8の6
(生田新道相模タクシー横上る) TEL 321-0260

スタンド **グラムール**
生田筋岸ビル地階 TEL 331-4637

S N A C K **MATSUMOTO**
神戸市生田区中山手通1丁目32-3
曾根ビル1F TEL 241-5470

カクテルラウンジ **サヴォイ**
高梁山側 テキの店北
TEL 331-2615

DRINKING IS **ウッドハウス**
AN ART OF LIFE
神戸市生田区下山手通1丁目32
PHONE 078-241-7320

スナック **ビジービー**
神戸市生田区中山手2丁目
TEL 391-4582

居酒屋 **ボルドー**
生田新道浜側中央KCBビルB1F
TEL 331-3575

Wine and something **珍地理屋**
神戸市生田区中山手通1丁目24-7
大和ナイトプラザ1F TEL 242-0288

サロン **神時代**
生田区中山手通1丁目128
シャドウコトブキビル TEL 242-3567

スタンド **くる実**
生田区中山手通1の72
TEL 331-6985

洋酒の店 **キャンティ**
神戸市生田区北長狭通2丁目3
TEL 391-3060・391-3010

スー&パン店 **キャンティ北店**
神戸市生田区下山手通3丁目8-9 TEL 331-3661

DRINK SNACK **スネカジリッ子**
神戸市生田区下山手通2丁目
永晃ビルB1 TEL 391-8708

Stand&Snack **サントノール**
ティー&ドリンク
生田区下山手通2丁目トア・ロード
TEL 391-3822

Salon de roulette **サントノール**
パンドラ
神戸市生田区中山手通1丁目24-7
ダイワナイトプラザ6F TEL 241-1710・221-3886

素舌洞 **でっさん**
神戸市生田区北長狭通1丁目258
TEL 331-6778

STAND **マシュケナダ**
生田区下山手通2丁目ちやいなタウン地下
TEL 331-5587

スナック **GASTRO**
神戸市生田区中山手通3-20
トアマンション TEL 231-0723

スタンド **クラブ・ガーデニア**
神戸市生田区中山手通1丁目115
東門筋中島ビル2F TEL 391-3329

ティー&パブハウス **バスチャリントン**
生田区北長狭通2丁目(トアロード)
TEL 332-1125

スナック **比°奈古多**
とうふ料理
神戸市生田区北野町1丁目143
Tel 241-1306

サロン **アルバトロス**
生田区中山手通り1丁目24の7
大和ナイトプラザ2F-B TEL (231) 3300

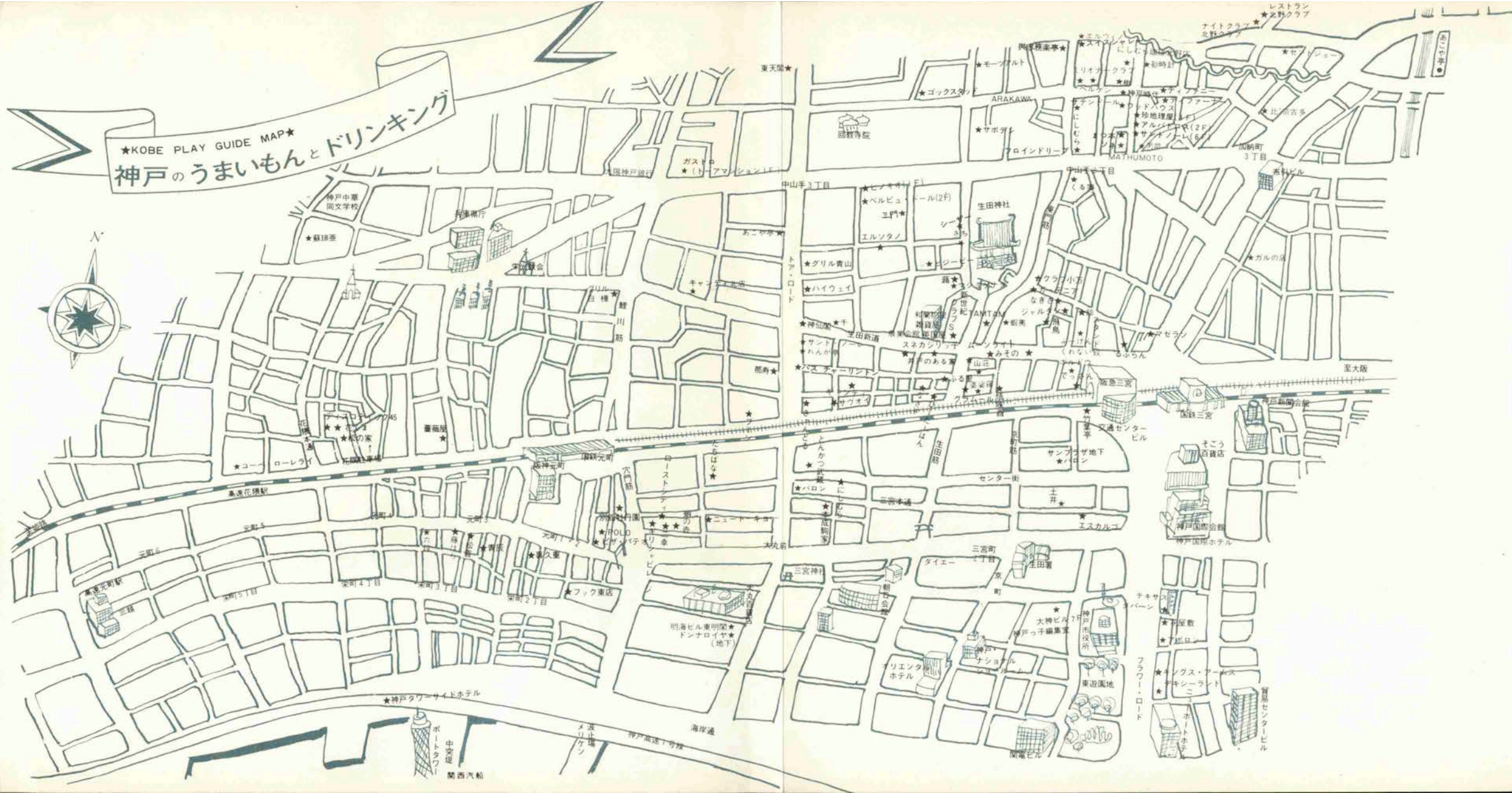
スナック **エルソタノ**
神戸市生田区下山手通 TEL 331-6620

スナック **山荘**
神戸市生田区北長狭通1丁目22
TEL 391-5823

スタンド **紋**
神戸市生田区北長狭通1丁目41-1 レンガ筋
TEL 331-8858

スナック **興志務楽亭**
神戸市生田区山本通2丁目60パールライブB1
TEL 242-1977

★KOBE PLAY GUIDE MAP★
神戸のうまいもん と ドリンク





baLcon antique series

XXVIII

陶器とガラス器

白石 弘子

〈染色家〉

「どこかいびつで それで
いてかたちの美しく愛らし
いもの そして それぞれ
が語りかけている そんな
ものが いつのまにかあつ
まってしまいました」と語
る白石弘子さん。ガラスの
器にしろ小さな陶器にしろ
何となく形が妙である。そ
んなかわいい器が、ただた
なに飾って楽しんでという
ことでなく、実用になって
いるということが、日常生
活を何かアクセントのある
粹に楽しむこの人の「生」を
表わしている。

トア・ロードバロンにて
カメラ／米田定蔵



バロン

★英国風喫茶・レストラン 三宮さんプラザ店
TEL 391-1758 AM11:00~PM 9:00迄

★コーヒーショップ トア・ロード店
TEL 391-1210 AM10:00~PM 9:00迄

★コーヒーショップ センター街店
TEL 391-1375 AM10:00~PM 9:00迄



メリケン波止場へ



★みよしや
★スギヤ
★伊藤文具店
★末模製靴
★宇佐美印刷
★ドレミ
★ちから餅

門三宮神社

●モリカワ
★スギヤ
●伊藤文具店
★末模製靴
★宇佐美印刷
★ドレミ
★ちから餅

●ドンク
★神和信用金庫
●パロン

センター街

至元町

至元町

至三宮

●モリカワ
★スギヤ
●伊藤文具店
★末模製靴
★宇佐美印刷
★ドレミ
★ちから餅

●ドンク
★神和信用金庫
●パロン

センター街

★ファミリア
★モトヤ
★ローレル
★とんかつむさし

★きんぐどろ
★岡女堂
★花柳堂
★クイン様店
★三友堂

英国の伝統
を受けつぐ



本社
株式会社

不二屋

本社 生田区三宮町 3-5 TEL 391-0535
工場 垂水区多聞町小東山975 TEL 706-5914



春風にのってやってきた水色たち

オートクチュール

アスター ニュートン

神戸トアロード TEL 331-1818
大阪 阪神 TEL 361-1201



山と海をつなぐ坂道トアロード

神戸は背に六甲山脈、前に神戸港がある細長い街だが、その街の縦線がみなそれぞれの顔をもつ坂道たち。このトアロードも、金星台・ビナスブリッジとパノラマのように広がる神戸の街を一望にのぞめる高台をもつ諏訪山と外国船がゆきかうメリケン波止場をつなぐエキゾチックな雰囲気漂う坂道なのです。



★ジャズ
生田区北野町3丁目
アニルドマンションF
☎242-20040
あなたの心に生まれる充実感。
そんな語りかけのあるジャズの
店。毎週土曜日の夜はピアノト
リオ+女性ヴォーカルが小粋に
スイングする。

コルコバド



KOBE ミュージック HOUSE

ある夜、あなたと私の心の
中に響きあった音。それが
神戸のサウンドであった。

★フラメンコの店

エル・ヴィノ

生田区北野町3丁目
アニルドマンションF
☎242-1344
スペインの街角に流れる
情熱の響き。それがその
ままここ北野町で。マス
ターの向田さんのフラメ
ンコギターに耳を傾けな
がらの酒。あなたの夜。
毎月第一・三土曜日はフラメンコ
舞踊ショー。水曜休。

サテンドール

★ジャズ
生田区中山手通1丁目
☎242-0100

宮原透トリオの連日の演
奏が聴きもの(1)7:30
8:10 (2)8:40 9:20
(3)9:50 10:30 (4)11:00
(11:30)
近々東京の一流プレイヤー
によるゲストタイムも
始まる。



★メキシカンレストラン

ティファアーナ

生田区中山手通1丁目
☎242-00043

このメンバーがあなたに捧げる
ラテンの世界。ローソクの炎が
ムードを盛りあげ、いつしかあ
なたはメキシコの夜、情熱の夜
へ。



五月八日 新装オープン

クラブ小万のママ岩本起代子さんの二世、文夫さんによって
スナック“ちくせん”が、ピアノ演奏とドリンクの店として
装いも新たにオープンしました。



スナック
ちくせん



神戸市生田区下山手通1丁目85(東門筋)中島ビル4F

☎331-3131

近藤正実・岩本文夫



スナック &
ドリンク

姫

生田区中山手通1丁目18

☎ 221-1950



DRINKING IS AN ART OF LIFE 生田区中山手通1丁目32

WOODHOUSE

山内ビル

☎ 241-7320

KOBE DRINKING GUIDE

山崎
ステーキハウス

生田区中山手通1丁目

前川ビル1F

☎ 391-3335



英国風サルーン

生田区中山手通1丁目105

ジニフ

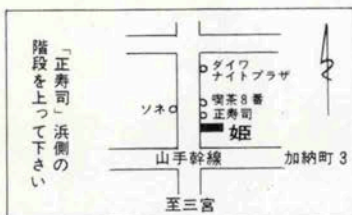
ホワイトキャッスルビル3F

☎ 321-5577



★可愛いくてステキなママのいる店が“姫”だ。この店の持ち味を言葉でアレコレ説明するのは野暮のようだ。上品なムードももちろんこの店の持ち味の一つだが、それだけじゃない。ある男はいった。酒も女もいろいろと知っている方がいいだろう。店にしてもそうだ。だが、オレはこいつでなきゃいけないという酒や女にめぐり会ったとき、無類に嬉しくなるものだ——そして、オレはやっと“姫”という店を見つけたのだ。旅人が旅路の果てに疲れをいやす、そんなやすらぎがこの店にはあるのだ、と。

☆ボトル (OLD) ¥6,500 ボトル (ホワイトホース、カティサーク) ¥8,000 水割 (OLD) ¥500 ビール ¥400
6:00P.M. ~ 0:00A.M. 日曜祭日休み



★本当の食通の人は、生半可な味では納得できず、満足の行く味に出会うまで捜し続けるものです。そんな人でも、ステキハウス“山崎”の味には、成程とうなづかれています。味が一番大切ですが、落ち着いた雰囲気も“山崎”にはあります。取り揃えているワインを楽しみながらゆっくりと食事ができます。また、あらかじめ予約をしておくと奥のボックス席が利用できます。三十名様ほどのパーティーなどにも最適です。まったけ、カキなど季節の料理もあります。家族づれ、友人同士、グループなどの会合にぜひご利用下さい。

☆最上級神戸肉ステーキ ¥5,000 サーロインステーキ ¥3,000 テンダーロインステーキ ¥3,000 車海老のバター焼き、アワビのバター焼き、ビール ¥300 ボトル (OLD) ¥5,000 ボトル (ホワイトホース)、ボトル (カティサーク) 各 ¥7,000
5:00P.M. ~ 2:00A.M. 日曜日休み

★歌にうるさいあなたがきっと満足してくれることを約束する彼。彼の名はチャーリー。甘い声、ハートのこもった歌唱力。なにをとっても魅力的な彼が、あなたの目の前で歌ってくれる時のあの澄んだひとみ。

ボビュラーもいい、ロックもいい、でも、ブルースを歌っている時の彼の顔、声はほんものだ。

5月の“ウッドハウス”。ほんものが聞こえてきます。

今夜さっそく聞いてください。“ウッドハウス”です。

☆営業時間が変わりました。平日/午前8時→午前4時30分、日曜/午後6時→午前12時、年中無休

コーヒ ¥150 紅茶 ¥150 ビラフ ¥250 サービスランチ ¥300 ビール (小) ¥300 水割り (OLD) ¥400 フィズ ¥500 おつまみ ¥100

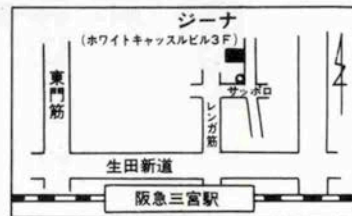
ヒメ

ウッドハウス

KOBE DRINKING GUIDE

ヤマサキ

ジーナ



★昨年にオープンした“ジーナ”という可愛い名前のお店をご存知ですか。陽気で気さくなママは、もとオフィスレディだったとかで、素人っぽさが魅力。人と人との会話を求めてこの店を開いたとか。店内は明かるく、しかも落ちついたサロン風で、いつも素適なレコード音楽が流れている。粋なバーテンさんのつくる料理も好評で、20代~40代のビジネスマンや自由業の人が多く客層は幅広い。グループの場合はボックス席が利用できるのが便利。

☆水割 (オールド) ¥450 ビール (小) ¥350 チキンバスケット ¥500 野菜いため ¥500 お茶漬 ¥400 その他、うどん焼、なべ焼うどんなどメニューは豊富
5:30P.M. ~ 0:30A.M. 無休